

■■日本現代中国学会ニューズレター第 27 号■■

2009 年 5 月

---

CONTENTS

- 卷頭言
  - 日本現代中国学会 2009 年度関西西部会大会のご案内
  - 第 5 回太田勝洪記念中国学術研究賞の発表
  - 日本現代中国学会事務局宛寄贈図書・雑誌
  - 「建国 60 年」「学会 60 年」記念出版企画の編集進む
  - 地域部会活動報告
  - 2009 年度学会スケジュール（予告）
- 

【卷頭言】

天安門事件 20 周年と香港

倉田 徹（金沢大学）

筆者が大学の教壇で、政治学ないし現代中国論と題する講義を始めて、今年で 3 年目である。博論の執筆に 7 年の時間を要し、つい最近まで学割の恩恵にあずかっていたため、筆者は自分が学生とほぼ同世代の人間であると勝手に錯覚してきたのであるが、小学生の時分に 911 テロのニュースに衝撃を受け、国際関係に興味を持ったというような彼らの自己紹介を聞くにつけ、厳然たるジェネレーション・ギャップの存在を思い知らざるを得ない。中国に関して言えば、「平成生まれ」の大学生に講義する際、「あの天安門事件」という表現は勿論通用しない。数年のうちには、「あの反日デモ」さえも記憶しない学生が、筆者のもとに集うようになる。反日デモを論ずるにしても、当時の状況を一から説き起こさなければ、学生を理解に導くことができなくなる時が、やがて来るのである。

天安門事件 20 周年は、天安門事件を知らないオトナの出現を意味する。このことは、中華人民共和国の実効支配領域の中で、唯一合法的に、大規模に天安門事件を記念する活動が展開されている香港においても同じである。毎年行われている、6 月 4 日の直前の日曜日の天安門事件記念デモと、6 月 4 日夜のキャンドル集会は、20 周年という節目にあたり、今年は例年以上に大規模に行われるはずである。しかし、その一方で、香港の大学生の間では、学生運動の武力鎮圧という事件に対し、新鮮な怒りの感情を持ち合わせない者が増えつつある。

香港大学では今年 2 月、学生会の会長選挙が行われ、社会科学部一年の陳一諤が当選を果たした。「隠れ左派」とも称される陳は、民主派よりの傾向の強い香港の学生運動においては異色のリーダーと言えるが、その天安門事件に関する発言が、目下香港で大いに議論の的となっている。4 月 7 日、民主党副主席の劉慧卿立法會議員や、台湾スパイの容疑で昨年 2 月まで大陸で投獄されていたジャーナリストの程翔とともに、天安門事件を記念するフォーラムに参加した陳は、当時の学生側の行動を疑問視する発言を行った。中央政府の鎮圧には問題があったかも知れないが、本来理性的に解決できるはずのものが、武力鎮圧に至ったのは、学生指導者に私心があったからではないか、学生指導者は何らかの勢力の影響の下で、すべきではない決定をしてしまったのではないかと陳は述べ、特に柴玲を

名指しし、敵前逃亡指導者と批判した。さらに、大陸出身の学生が、香港大学内で学生が掲示している、戦車が学生を踏みつぶしたとされる当時の写真を見て、戦車が踏んだのに自転車や学生が原形を留めているのはおかしいと述べたのに同調し、陳は死者が解放軍の軍人なのか、一般市民なのか、検証する必要があると述べたのである。

この発言には香港各界から議論が百出した。民主派からは、陳一諤に冷血との批判が浴びせられ、中央政府による天安門事件の曖昧化工作と洗脳が成功したとの皮肉も聞かれた。また、学生の多数派からは、陳の発言は支持されなかった。香港中文大学学生会が陳の発言への「極度の憤怒と驚愕」を声明したのみならず、陳の同僚の香港大学学生会幹事会も、陳の発言は幹事会の立場ではないと強調し、陳との間に一線を画した。学生会は中央政府に天安門事件の名誉回復を求める決議案を提起し、学生投票の結果、賛成 1,843、反対 79 の圧倒的多数によりこれを可決した。香港大学生で、昨年北京オリンピック聖火リレーの香港通過の際、チベット問題に関して中央政府への抗議活動を行った陳巧文らは、陳一諤のリコールを求める署名を集め、4月24日に行われた選挙では、罷免に賛成が 1,592 票、反対が 949 票となり、陳は香港大学学生会長として、史上初めて罷免の憂き目に遭ったのである。

その一方で、陳一諤を擁護する発言も見られた。左派を中心に、陳にも言論の自由があり、この問題だけを理由に罷免させるのはおかしいとの議論が展開された。上述の通り、中央政府への抗議決議に対する圧倒的多数の賛成に比して、罷免動議が少なからぬ反対票を集めたのは、このような「陳一諤の言論の自由」論に一定の市場があることを窺わせる。大陸出身の学生は、香港人の天安門事件に対する理解は偏っていると主張する。民主派にこれに同意する者はいないが、陳と同じフォーラムに参加した劉慧卿は、陳に同情も寄せる。劉は陳の発言に良い気分がしないとしつつも、事件当時、学生は生まれてもいなかったのであり、天安門事件を論ずるフォーラムに参加すること自体は、嘉すべきことと述べたのである。

一連の騒動は、20年の時の重みを感じさせる。1989年当時、天安門事件が返還を控えた香港に与えた衝撃は計り知れず、100万人規模の抗議活動が展開されたほか、多数の者が香港から我先にと脱出し、海外へ移民した。香港市民の共産党不信は極点に達し、民主化運動がにわかに沸騰した。しかし、間もなく返還12周年を迎える香港は、その政治的自由を失ってはいないものの、経済面での大陸依存を強め、市民の中央政府への信頼度は過去最高を更新し続けている。そんな中、天安門事件をめぐっても、中央政府の見解に近い意見が、徐々に影響力を広げつつある。そして、こうした変化は、世代交代によって、必然的に加速されるのである。

天安門事件後20年の間、中国では天安門事件以上に「劇的な事件」は発生していないと言ってよいであろう。しかし、この20年間の変化の蓄積は、振り返って見たとき、天安門事件の衝撃に勝るとも劣らない、巨大なものとなっている。返還後の「五十年不変」を約束された香港においても、大陸との関係をめぐる小さな変化の蓄積は、香港の本質に関わる大きなものへと膨らんできている。陳一諤の事件は、返還後の香港政治を研究してきた筆者に、そのような変化の蓄積を見せつけるものとなった。

## 【日本現代中国学会 2009 年度関西西部会大会のご案内】

4 回目の開催となります 2009 年度関西西部会大会のプログラムをお届けいたします。周囲の方々にもお声をかけていただき、多数ご参加いただきますようお願いいたします。

出欠につきましては、「参加申込書」にご記入の上、6月3日(水)までに、電子メールもしくはファックスにて事務局総務宛ご回答ください。会場の都合上、事前に参加人数を把

握する必要がございますので、お手数ですがご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

参加申込書 送信先 関西部会事務局（総務）日野みどり

電子メール：hino@kinjo-u.ac.jp

ファックス：052-799-2196（金城学院大学現代文化学部：「日野宛」と明記願います）

## ○日本現代中国学会 2009 年度関西部会大会 〈プログラム〉

日時：2009 年 6 月 13 日（土）10:00～17:30（受付は 6F にて午前 9 時 30 分より開始）

会場：大阪市立大学文化交流センター（大阪駅前第二ビル 6F）・生涯学習センター（同 5F）

参加費：無料（懇親会費用は別途）

【自由論題報告】（報告 30 分、コメント 10 分、討論 10 分）

【政治・社会分科会】（6F 大セミナー室）

司会：松村嘉久（阪南大学）

・第一報告（10:00～10:50）

関穎（立命館大学大学院国際関係研究科）「合同（共同）軍事演習の新展開—中国の「新安全保障観」との関連—」

〔コメンテーター〕服部隆行（愛知学院大）

・第二報告（10:50～11:40）

畢麗傑（立命館大学大学院国際関係研究科）「中国における高齢者介護の社会化と在宅介護」

〔コメンテーター〕真殿仁美（九州看護福祉大学）

・昼食休憩（11:40～12:40）

・第三報告（12:40～13:30）

聶海松（東京農工大学大学院）「中国海南省における高齢者生活に関する研究—2008 年の調査から—」

〔コメンテーター〕許海珠（国士舘大学）

【文学・思想分科会】（5F 生涯学習センター）

司会：杉本雅子（帝塚山学院大学）

・第一報告（10:00～10:50）

南真理（大阪市立大学大学院文学研究科）「現代中国の抗日戦争テレビドラマについて」

〔コメンテーター〕好並晶（近畿大）

・第二報告（10:50～11:40）

大野陽介（大阪市立大学非常勤講師）「建国初期の現代戯にみる女性像について—「劉巧児」を中心に—」

〔コメンテーター〕田村容子（福井大学）

・昼食休憩（11:40～12:40）

・第三報告（12:40～13:30）

吉田世志子（関西大学大学院中国文化専攻）「『百花齊放』から『反右派闘争』の中の老舎—『茶館』を中心に—」

〔コメンテーター〕石井康一（甲南大学）

【経済分科会】（6F ホール）

司会：上原一慶（大阪商業大学）

- ・第一報告（10:00～10:50）

登山和希（大阪市立大学大学院経済学研究科）「企業改革下における上海港湾企業の変化と課題」

[コメンテーター] 有田正文（財団法人・大阪国際経済振興センター）

- ・第二報告（10:50～11:40）

堀喜丈（中京大学大学院商学研究科）「中国における小口融資会社の発展と諸問題」

[コメンテーター] 白石麻保（北九州市立大学）

- ・昼食休憩（11:40～12:40）

- ・第三報告（12:40～13:30）

韓光燦（京都大学経済学研究科・日本学術振興会外国人特別研究員）「鞍鋼における余剰人員の整理と削減—ソフト予算制約の解消の視点から—」

[コメンテーター] 李捷生（大阪市立大学）

#### 【歴史分科会】（6F 小セミナー室）

司会：石黒亜維（大阪商業大学）

- ・第一報告（10:00～10:50）

新地比呂志（明石市立二見小学校教諭）「改組派の結成と中国共産党との相克」

[コメンテーター] 橋本浩一（守口市立八雲東小学校）

- ・第二報告（10:50～11:40）

王雪萍（関西学院大学言語教育研究センター）「中国の歴史教育課程における階級闘争史観の変容—「教学大綱」と歴史書の記述の変化を中心に」

[コメンテーター] 三好章（愛知大学）

- ・昼食休憩（11:40～12:40）

- ・第三報告（12:40～13:30）

大西広（京都大学経済学研究科）「チベット農奴制の歴史的な位置づけについて」

[コメンテーター] 川田進（大阪工業大学）

[休憩] 13:30～13:40

#### 【共通論題】 13:40～17:30

「現代中国」—問われる正統性とその再構築過程—

座長：佐々木信彰（大阪市立大学）

13:40～14:00 問題提起：西村成雄（放送大学）

パネリスト／討論者：

14:00～14:40 【政治・法律領域】

高見沢磨（東京大学）／宇田川幸則（名古屋大学）

14:40～15:20 【経済領域】

加藤弘之（神戸大学）／劉徳強（京都大学）

15:20～15:30 休憩

15:30～16:10 【歴史領域】

三品英憲（和歌山大学）／田中仁（大阪大学）

16:10～16:50 【文学・思想領域】

瀬戸宏（摂南大学）／宇野木洋（立命館大学）

16:50～17:30 全体討論

\* 問題提起の詳細は文書末をご覧ください。

**【懇親会】**（18:00～20:00）

会場：検討中

会費：一般 5,000 円 学生（院生）3,000 円

\*参加希望者は必ず事前に出席のご連絡をお願いします。

●関西理事会のご案内

昼食休憩中に関西理事会を開催いたします。関西理事の方は、6月3日（水）までに出欠を事務局宛お知らせください。

●参加者の皆さんへ

1. 当日の昼食は周辺のレストランなどをご利用になるか、お早めに周辺のコンビニなどで弁当などを購入するようお願いいたします。
2. 出張依頼状は公印を押す必要があるため、全国事務局で発行します。必要とされる方は、下記宛ご連絡ください。

〒166-8532 東京都杉並区和田 3-30-22 大学生協学会支援センター内 日本現代中国学会事務局

Tel : 03-5307-1175、 Fax : 03-5307-1196

E-mail: genchu@univcoop.or.jp

3. 関西部会大会では、学会費の取り扱いはいたしません。学会費は本部事務局に納入下さい。本部事務局振替口座番号は、学会 HP に記載されています。
4. 会場にはコピー機が設置されていません。報告者の方は、配布資料をあらかじめ印刷してご持参下さい。

●会場へのアクセス

大阪市立大学文化交流センターウェブサイトの「アクセス」をご参照ください。

<http://www.osaka-cu.ac.jp/faculties/bunko/access.html>

日本現代中国学会関西部会事務局

〒651-2103 神戸市西区学園西町 3-1

流通科学大学商学部・辻美代研究室

連絡先（総務・日野みどり）

-----  
**【共通論題シンポジウム：問題提起】**

「現代中国」一問われる正統性とその再構築過程—

現代中国政治の大転換から 30 年を経た今日、中国社会はひとつの構造化された枠組のなかでさまざまな矛盾の噴出に直面している。とりわけ 2008 年秋以来の国際経済の変動は今後どのように中国に影響するのだろうか。

昨年の関西大会と全国大会では、いずれも改革開放の 30 年をどうとらえるのか、各分野からの刺戟的報告をめぐり活発な議論が展開された。しかも、本年の全国大会は「中華人民共和国の 60 年—中国はなにを成し遂げ、どこに向かっているのか—」をテーマとした国際シンポジウムが企画されている。

こうした蓄積のうえに、本年度の関西大会シンポジウムは、「100 年中国」をも視野に入れた展望のもとに、「支配の正統性」の視覚から現代中国を再認識する課題を設定した。たとえば、中国政治はどのような支配の正統性原理をもって制度化し運用してきたのか、ま

た中国社会の側はどの程度その正統性を受容しつつ抵抗してきたのか、など、21世紀中国のゆくえを見きわめるうえで重要な論点が内在している。そして、そこから導かれる正統性の再構築過程の特徴とその矛盾の所在を再認識することは、中国理解のために新たな「支点」を獲得する契機になるだろう。

各領域からこうした課題に接近する4人のパネリストと討論者をおねがいし、「現代中国」の再認識を大胆に提起していただき、現代中国研究の一層の発展を期待したい。

以上

### 【第5回太田勝洪記念中国学術研究賞の発表】

第5回太田勝洪記念中国学術研究賞は、『中国研究月報』編集委員会および『現代中国』編集委員会（日本現代中国学会）より推薦のあった論文が選ばれ、2009年1月31日（土）に開催された中国研究所新年会において、受賞論文の発表および賞状・賞金の授与が行われた。

◎『現代中国』第82号掲載論文からの推薦論文

朴敬玉「朝鮮人移民の中国東北地域への定住と水田耕作の展開—1910～20年代を中心に—」（『現代中国』第82号掲載）

推薦理由：

本論文はタイトルが示す通り、1910年代から20年代にかけての中国東北地域における水田耕作の展開について、朝鮮人移民の移動・定住の過程との関連を中心に考察したものである。東北地域における稲作の問題は、朝鮮人農民の移住及びその漢人農民との接触など、政治、経済、文化の諸要素が複雑に絡み合ったきわめて興味深いテーマであるが、著者は国内外における先行研究を十分に踏まえた上で、従来見過ごされてきた朝鮮人農民の移住動機の多様性や移住の形態、あるいは栽培品種に着目し、新たな視点と知見を提示した。論の進め方は着実で、従来の地域区分を踏まえながら、政治的条件、気候条件、朝鮮人移民の移住過程に基づいて著者が独自に立てた北満・中満・南満の地域区分ごとに、朝鮮人の移住、水田耕作の展開、日本や中国の農業、移民政策について丹念に整理している。その結果、日露戦争から辛亥革命以降の東北地域における米需要の増加という時代的背景下で、日本側の政策的関与と直接耕作者としての朝鮮人移民の移住によって、水田耕作が広まり、1910～1920年代、移民の増加と地域に適した品種の普及により、広範囲における水田耕作が可能となった過程や、各地域の稲作の特徴が諸条件の絡み合うなかで形成されたことが明らかにされた。また、近代の朝鮮人移住と農業耕作について、北部農民は畑作技術を媒体として間島地方に移住し、南部農民は水田米作技術を媒体として中・北満地方に移住したという、従来の二系列移動説よりもずっと複雑な様相があり、歴史的により精密に検討し直す必要性も示され、今後この分野の研究における一つの方向性が提示された。

著者が今後も近代東北地方における農業や移動について研究成果を上げ、近代東北アジアの歴史に新たな光を当てることを期待して、『現代中国』編集委員会は本論文を太田記念賞に推薦することとした。

（『現代中国』編集委員会）

## 【日本現代中国学会事務局宛寄贈図書・雑誌】

(2008年1月～2009年4月)

- ・大谷順子『国際保健政策からみた中国—政策実施の現場から—』九州大学出版会、2007.3.31
- ・四日市康博編著『モノから見た海域アジア史—モンゴル—宋元時代のアジアと日本の交流—』九州大学出版会、2008.3.31
- ・保母武彦・陳育寧編『中国農村の貧困克服と環境再生』花伝社、2008.4.21
- ・ユ・ヒョジョン、ボルジギン・ブレンサイン編著『境界に生きるモンゴル世界—20世紀における民族と国家—』八月書館、2009.3.28
- ・アジア経済研究所『アジア経済』2009年4月号（第50巻第4号）まで

## 【「建国60年」「学会60年」記念出版企画の編集進む】

### 60周年記念事業企画委員会 大西広

現在、「建国60年」と「学会60年」を記念した出版企画の編集作業が進んでいます。これは、『中華人民共和国の60年(or 還暦の中国)—毛沢東から胡錦濤への連続と不連続—』とのタイトルを予定し、以下の会員の原稿を掲載することとなっています。これらはここ3度の本学会の全国大会での報告を基本とし、それに一部関西西部会大会の記念報告を追加したものです。編集作業はまだ途上ですが、夏には刊行できるように努力中ですので、その際には是非会員の皆様にも購入・利用いただければと考えております。

参考までに以下に章別編成を示します。

### 第一部 毛沢東時代再論

- 第1章 「毛沢東の思想と文化大革命」 近藤邦康
- 第2章 「文革期民衆の集合行為」 金野 純
- 第3章 「毛沢東時代の中国経済の再評価-国民の生活水準を焦点に-」 唐 成
- 第4章 「毛沢東時代のリベラリズム—「百家争鳴・百花齐放」をめぐる—」 水羽信男

### 第二部 鄧小平時代再論

- 第5章 「『思想解放』と改革開放」 砂山幸雄
- 第6章 「改革開放の始まりと終わり—市場移行の視点から—」 加藤弘之
- 第7章 「問題としての近代から見た「毛鄧」時代」 宇野木 洋

### 第三部 (胡錦濤の)現代に復活する毛沢東

- 第8章 「中国的抵抗権思想としての現代の毛沢東」 季衛東
- 第9章 「中国現代アートにおける文革アートの復活」 牧 陽一
- 第10章 「映画における毛沢東文芸へのアレルギーの消失」 好並 晶

### 第四部 世界史の中の中国

- 第11章 「冷戦と中国の社会主義体制」 奥村 哲
- 第12章 「現代化建設と中国外交—華国鋒時代から鄧小平時代へ—」 石井 明

## 【地域部会活動報告】

### ●関東部会

春季修士論文報告会を開催しました。

日時：2009年5月16日（土）

場所：東京大学本郷キャンパス 東洋文化研究所3階会議室

総合司会・進行：高見澤磨（東京大学）

・第一報告：13：00－13：50（報告25分、コメント10分、質疑15分）

司会：村田雄二郎（東京大学）

報告者：古谷創（東京大学大学院総合文化研究科博士課程）「梁啓超のヨーロッパ旅行とその後の思想展開について－ベルクソンとの会見がもたらしたもの－」

・第二報告：13：50－14：40

司会：土田哲夫（中央大学）

報告者：平田康治（東京大学大学院法学政治学研究科博士課程）「帝国の外交－イギリス出先機関と対中国借款政策、1911－1914－」

・第三報告：14：50－15：40

司会：趙宏偉（法政大学）

報告者：遠藤佳代子（中央大学大学院文学研究科博士課程）「『先鋒文学』の技法」

・第四報告：15：40－16：30

司会：孫安石（神奈川大学）

報告者：湯川真樹江（慶應義塾大学大学院文学研究科研究生）「『満洲』における米作の展開 1913-1945－満鉄農事試験場の研究成果と課題－」

### 【2009年度学会スケジュール（予告）】

#### ●西日本部会 2009年春季研究集会

5月30日（土）に、西南学院大学で開催されます。

報告者の公募など詳細は3月下旬に学会ホームページなどで通知する予定です。

#### ●2009年度全国大会

10月17日（土）、18日（日）に、神戸大学で開催されます。

報告者の公募など詳細は後日学会ホームページなどで通知する予定です。

---

### 日本現代中国学会事務局

〒166-8532 東京都杉並区和田 3-30-22

大学生協学会支援センター内 日本現代中国学会事務局

TEL：03-5307-1175 FAX：03-5307-1196

genchu@univcoop.or.jp

郵便振替：東京 00190-6-155984

広報委員長：加茂具樹（慶應義塾大学） ニュースレター編集：石塚迅（山梨大学）

日本現代中国学会 HP：<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jamcs/index.html>